兵庫県南部地震　淡路島における震災調査報告

目　　次

はじめに

第１章　兵庫県南部地震と淡路島 …… 1
1．1　兵庫県南部地震の概要 …… 1
1．1．1　概　説 …… 1
1．1．2　震度分布と地震の大きさ …… 1
1．1．3　余震活動 …… 4
1．2　淡路島の島勢と地質 …… 4
1．2．1　島勢一般 …… 4
1．2．2　地質概況 …… 5
1．2．3　活断層 …… 7

第２章　兵庫県南部地震による被害状況と復旧過程 …… 9
2．1　家屋の被害状況と復興過程 …… 9
2．1．1　家屋の被害状況 …… 9
2．1．2　家屋の復興過程 …… 17
2．2　農地の被害状況と復旧過程 …… 17
2．3　ため池の被害状況と復旧過程 …… 18
2．3．1　ため池の被害状況 …… 18
2．3．2　ため池の復旧過程 …… 27
2．4　土木施設の被害状況 …… 28
2．4．1　港湾構造物 …… 28
2．4．2　河川構造物 …… 43
2．5　ライフラインの被害状況と復旧過程 …… 44
2．5．1　電　気 …… 44
2．5．2　電　話 …… 45
2．5．3　バ　ス …… 46
2．5．4　物流ルート …… 49
2．6　地場産業の被害状況と復旧過程 …… 50
2．6．1　農　業 …… 50
2．6．2　漁業および水産加工業 …… 51
2．6．3　製造業 …… 51
2．7　観光産業への打撃 …… 55

第３章　営農環境に関するアンケート調査 …… 59
３．１　平成７年６月（１回目）のアンケート調査の概要 …… 60
３．１．１　調査集落の特徴 …… 60
３．１．２　地震被害が今後の農業活動に及ぼす影響 …… 60
３．２　平成８年６月（２回目）のアンケート調査 …… 62
３．２．１　地震前における営農形態 …… 62
３．２．２　地震による直接被害の状況 …… 64
３．２．３　農業に対する取組の変化 …… 66
３．２．４　淡路島の営農環境に関する考え …… 68
３．３　まとめ …… 70

第４章　震災余波 …… 71
４．１　人口の変動 …… 71
４．２　仮設住宅事情 …… 72
４．３　消費生活事情 …… 73
４．４　雇用事情 …… 76

おわりに …… 80

添付資料
１．　平成７年６月に実施したアンケート調査 …… 82
２．　平成７年６月実施アンケートの単純集計結果 …… 84
３．　平成８年６月に実施したアンケート調査（２回目） …… 88
４．　平成８年６月実施アンケート調査（２回目）の単純集計結果 …… 90
ダム建設に対する意見 …… 96
研究機関や行政機関に対する要望 …… 97

はじめに

平成７年１月１７日午前５時４６分、淡路島北部を震源とするマグニチュード 7.2の直下型地震が近畿地方を直撃した。兵庫県災害対策本部による平成８年３月３１日現在でのまとめによると、死者 6,279人、負傷者34,900人、倒壊家屋 192,706棟、焼失家屋 7,456棟であって、直接被害額が１０兆円に上がるという未曾有の大災害をもたらした。我々高知県に在住している者にとって、地震直後には、これほどの大災害になろうとは思われなかったが、テレビ等の報道を通じて次第に事の重大さを知らされた。

地震発生から数日後、学科内に震災調査グループを組織し、高知から唯一交通の遮断されていなかった淡路島の現場を踏査することとした。農業土木を専門とする我々にとって震災調査は初めての経験であり、どのような踏査をなすべきかもわからぬまま、被災者の方々にご迷惑のかからぬように注意しながら、家屋の倒壊現場とため池を巡回した。そのとき目の当たりにした北淡町富島地区の光景などは、今でも我々の脳裏に焼き付いている。

１回目の踏査を基にして調査グループを３班に分け、研究室の学生諸君にも参加してもらって本格的な調査を実施することとした。第１班は、家屋の被災状況とその分布に関する調査を目的として、住宅地図に被災状況を記入してゆく調査を行った。第２班は、淡路島の代表的な水利施設であるため池の被害状況を要因分析することを目的として、踏査と資料収集を実施した。第３班は、淡路島の基幹産業である農業と水産業への影響、および物流や各種ライフラインの状況調査を行った。これらの調査を通じて、淡路島での物的な直接被害の状況と直後の混乱期における間接的な被害の状況とを概略把握することができた。

地震直後の調査が一段落した頃、淡路島では、ため池の応急復旧と農繁期とが交錯し、水稲を中心とする農業活動は重大な局面を迎えていた。そこで我々は、被災程度の甚だしかった淡路島北部の農村集落を対象として、営農活動に関する聞き込みとアンケート調査を実施した。殆どの農家は直面している状況を甘受し、地道な営農を継続している姿が明らかになったが、元来当該地域が有していた脆弱な営農体質に震災という負荷が作用して、営農形態が変質する兆候のあることも垣間見えた。淡路島北部地域の営農活動に及ぼす地震の影響は、継続的に見守ってゆく必要のあることが実感された。ここまでの調査結果の概要は、当該地域の役場や調査でお世話になった関係諸機関に送付させて頂いた。少しでもお役に立っていれば幸いです。

被災から２回目の農繁期を迎えた平成８年６月に、前回よりも若干調査範囲を広げて、再度営農活動に関するアンケート調査を実施した。さらに、震災が淡路島に及ぼした種々の影響の一端でも記録に残せたらとの思いから、関係諸機関においてその後の状況に関する聞き取り等を実施した。

本報告書は、我々のグループが行ってきたこれまでの調査結果を中心にして、兵庫県南部地震における淡路島の被災状況を取纏めたものである。学内の雑事や授業の合間を縫っての調査であったことに加え、地理的な問題もあって十分な調査報告とはなっていないが、何らかの参考になれば幸いに存じます。

平成８年８月

高知大学農学部震災調査グループ
松田誠祐・篠　和夫・大年邦雄・松本伸介

早速ではございますが，以下のような誤りが見つかりました。

お詫び致しますとともに，恐れ入りますが，訂正をお願い申し上げます。

正誤表

箇　　所	誤	正
p. 4　表-1.1.2の下2行目	00:33	0:33
p.15　18行目	下界断層	下堺断層
p.16　図 2.1.4 中央西	下界断層	下堺断層
p.23　表 2.3.2の下3行目	富島断層	野島断層
p.25　左上表 NO.22	下境断層	下堺断層
p.26　6行目	圧浜断層	厚浜断層
p.55　囲み記事の5行目	マリンレレジャー	マリンレジャー
p.73　6行目	信用保障承諾額	信用保証承諾額
p.73　6行目	保障協会淡路支所	保証協会淡路支所
p.73　最下行	宿泊量	宿泊料
p.74　図-4.3.2 縦軸単位	MWh	GWh
p.74　図-4.3.3 縦軸単位	MWh	GWh
p.76　図-4.3.6 図題目	公共事業	公共工事